



8.

福井県一乗谷 朝倉氏遺跡

2001.11.18.

田圃の中からよみがえった戦国の小京都



福井市一乗谷 朝倉氏城下町遺跡 復元城下町（町屋・武家屋敷）

11月17日 会社の旅行で加賀山城温泉へ。

翌18日 帰阪の途中 福井県の一乗谷 戦国大名朝倉氏の城下町遺跡をおとずれた。

福井市の南東約10kmに位置する一乗谷は、戦国時代の文明3年（1471）朝倉孝景が坂井郡黒丸からこの地に移り築城し、天正元年（1573）織田信長に滅ぼされるまで小京都と称されたほど賑わい、朝倉氏5代が103年間にわたって越前の国を支配する拠点としたところです。

一乗谷はもっと深い山の中と聞いていましたが、北陸自動車道福井インターから南へ足羽川沿いに大野の方へ約15分。山間に差し掛かるところで左から一乗谷川が流れ込む狭い谷。これが一乗谷。越美北線一乗谷駅が本流への谷の入口にある。この狭い谷の真中に一乗谷川が流れ、山にはさまれた川の両側の狭い台地の両側に戦国時代 朝倉氏が作った城下町がそっくりそのまま田圃の中に眠っていた。

昭和42年より、朝倉義景館跡をはじめとして、武家屋敷、寺院、町屋、庭園など戦国時代の町並みがほぼ完全な姿で発掘され、国の特別史跡・特別名勝に指定されています。



一乗谷遺跡 発掘跡



戦国大名朝倉氏の城下町 復元住居群

また、全国でも唯一の発掘された戦国城下町であり、学術的にも貴重な遺跡です。近発掘調査が進み川の片側に広がる武家屋敷や町屋の家並みが復元されている。

また 対岸には紅葉に彩られた山裾から山麓に広がる朝倉氏の館跡や朝倉庭園が広がり、その背後の山の上には朝倉氏の山城の跡が残っている。

義景館跡のシンボルである唐門をくぐると、往時の主殿であった常御殿跡には 基礎石が整然と並び、当時の栄華の跡が偲ばれます。

また、義景館跡庭園、湯殿跡庭園、諏訪館跡庭園、南陽寺跡庭園を総称して 一乗谷朝倉氏庭園といい、平成3年に国の特別名勝に指定されている。



一乗谷朝倉氏庭園と背後城山

一乗谷川の対岸にひろがる朝倉氏の館跡



義景館跡入口 唐門



義景館跡全景

狭い谷間の川沿いに人家は所々にあるものの静かな田圃の中にそっくりと城下町が埋まっていた。今も静かな山郷である。

戦国大名として隆盛をほこった朝倉氏が福井の平野部から移り住み作った城下町。そして戦国の戦いの中 織田信長に滅ぼされ、町自体が歴史から消え去ってしまった「一乗谷」。

越前の地は古代から開けた地。

九頭竜川の川沿いからは少し西側ではあるが、九頭竜川流域のごとく「鉄」の集散地であったと所に築城されたのではと想像していたのですが、そんな歴史はなさそう。

人工的にきっちり町並みが作られ、朝倉氏の滅亡と共にそっくり消えてしまった為、家並みがそっくりそのまま地下に眠っていたという。

戦国時代の武家屋敷・町屋 想像していたよりも小さく、屋敷というほどでない。戦乱の世 それほど裕福とは思えず。

戦いの歴史が刻まれたとはとても思えない。

イメージ的には織田信長に滅ぼされた悲劇の街並なんです、本当に静かな明るい山里

戦いは一瞬 時代の流れは穏やかに ゆっくりと

『自分の気持ちもそんな感じで居りたいなあ・・・』